

静寂

校長 幸柳 康弘



開錠前のピロティや昇降口では、前日の放課後に友達と遊んだ楽しいエピソードを語りあっているのでしょうか。はたまたテレビ番組やゲームの話題でしょうか。詳細はよく聞き取れませんが、笑みを浮かべ至る所でおしゃべりに花が咲いています。

休み時間には、楽しそうな叫び声や歓声、幾重にも重なる笑い声が校長室の窓ガラスを越えて飛び込んできます。子どもたちの

微笑ましい日常ともいえます。一方、授業中に教室を回っていると「シーン」と静まり返った場面を目にすることがあります。端末を活用し何やら調べている子、ノートに自分の考えを書き出している子、教科書を手掛かりに課題を解決しようとしている子など一様に同じことはしていませんが、黙々と学習に取り組んでいます。

子どもたちの活気ある話合いや活動、笑い声や歓声も素敵な学級集団の一つの表れですが、良いクラスの条件として「静寂がある」ことも大切な要素だと考えています。人は何かに没頭し真剣に考えているとき、言葉を発することはありません。友だちの発言を最後まできちんと聞ける。聞いてもらえるからまた安心して発言しようと思える。そんな好循環も生まれます。何気ない日常から、子どもたちの成長の様子を感じます。保護者・地域の皆様におかれましては引き続きのご理解とご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

5月5日は『こどもの日』

もともとは「端午の節句」で、男の子の健やかな成長や幸せを祈って、お祝いする日でしたが、1948年「こどもの人格を重んじ 子どもの幸福をはかるとともに 母に感謝する」お休みの日と決められてから『こどもの日』となったそうです。

すずかけの子どもたちが、

のびやかにばらんすよく

大きく大きく育ちますように！

